

1. 評価結果概要表

作成日 2008年12月28日

【評価実施概要】

事業所番号	0873300933		
法人名	株式会社 テンダーケアジャパン		
事業所名	ケアホーム テンダーの杜 なか		
所在地	茨城県那珂市横堀2274-1 (電話) 029-352-1260		
評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成20年12月20日	評価確定日	平成21年3月23日

【情報提供票より】(平成20年12月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 9 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤 7 人, 非常勤 6 人, 常勤換算	10.6 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,350 円		

(4) 利用者の概要(12月1日現在)

利用者人数	17 名	男性 6 名	女性 11 名
要介護1	0 名	要介護2	8 名
要介護3	5 名	要介護4	3 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 81.6 歳	最低 70 歳	最高 90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	佐竹南台 菜のはなクリニック、水戸志村病院、薄井歯科
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは幹線道路少し離れた静かな環境の中にある。近隣の協力のもと畑を借り、季節の野菜作りなどを利用者は楽しんでいる。施設内は利用者が幼少時代を過ごした民家風になっており、囲炉裏やラジオ、扇風機など懐かしい物が置かれ、落ち着いた雰囲気となっている。職員は近隣住民との関わりを大切にしなが利用者が安心して生活できる環境作りに取り組んでいる。また、職員の教育にも法人全体で取り組み、技術向上を行なっている。今後も、利用者とその家族や行政との関わりを深めながらより良いケアの提供に努めているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価を受けて職員間で会議を行い改善に努めてきた。具体的には、ホーム便りの他に写真を添えて利用者の様子を伝えるようにしている。また、運営推進会議を開催できるよう取り組みをしてきた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員での話し合いを持ち意見を出し合い、昨年の取り組みを確認しながら取り組んできた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	行政への働きかけを行い、昨年の5月に初回の運営推進会議を実施している。施設の活動内容やインフルエンザ対策などの会議内容となっており、現在は定期的な開催に向けての取り組みを行なっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情となる前に家族との話し合いや不安への対処を行なっている。面会時には家族への言葉かけを行ない、要望や不安の軽減に努めている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	日頃から散歩時のごみ拾いや、畑仕事を通じて交流を持ったりしている。また、地域のイベントにも住民からの誘いがあり参加している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中でその人らしく生活できるよう支援していくことをモットーに理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝の申し送りやケアを実施するなかでも理念を振り返り、確認するよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の方と一緒にもらった野菜を調理したり、生花を行ったりと交流を日頃から行っている。また、地域の行事の誘いもあり参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価を行なうことを前向きにとらえ全職員で改善に向けて取り組んでいる。運営推進会議の実施や利用者の子図解の管理についての報告も工夫され、改善されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年5月から開催されている。ホームの概要や活動報告、施設への要望や質問を受ける場としている。現在はまだ定期的な開催には至っていない。	○	今後は行政や家族、地域住民の協力のもと、定期的な開催に向けた取り組みを期待したい。

茨城県 ケアホームテンダーの杜なか

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は介護認定審査委員になっており、行政との連携を図っている。また、積極的に役所に出向き相談も行なっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の利用者の近況報告には写真を添付し、個々の様子を手紙にして報告している。また、健康状態の変化が合ったときにはその都度、電話等で連絡を行なっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情対策マニュアルがあり、第三者に報告も可能であることを入所時に説明しており、面会時には家族への言葉かけを行ない、心配事や要望の確認を行なっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職を最小限にし、新人職員の教育も徹底して利用者の混乱を防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体での技能検定を設けて介護技術の向上に努めている他、外部研修にも積極的に参加できる環境を整えている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のホームとの交流があり、困難事例の相談やホームの見学などを行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前の見学、体験入居、利用者や職員と一緒に過ごす時間(お茶のみ)など、個々の状況に合わせたサービスを提供している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員はお互いに助け合いながら生活をしているという意識を持って、利用者から生活の知恵や習慣などを教えてもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	どのように生活していきたいか、一人ひとりの希望や要望を利用者本人や家族から確認をしている。また、困難な場合は普段の生活のなかから読み取り検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ユニット毎に利用者のカンファレンスを行っており、リーダーが家族と話し合いを行なっている。本人の要望も確認し計画立案を行なっているが、生活歴やアセスメントとしての情報の整理が不足していると感じる。	○	入所前の情報や入所後の新しい情報を整理し、アセスメントしていくことでより個別で具体的なケアプランが作成できると考える。センター方式など、職員が研修などで学んできたものを活かしながらホームで活用できるよう取り組みが期待される。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	サービス担当者会議として計画の見直しや状況に応じた新しい計画を作成している。また、個別の記録もケアプランに即した内容となっている。		

茨城県 ケアホームテンダーの杜なか

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域からの相談受付、利用者や家族の要望に合わせた秒時の開催、体験入居や家族の宿泊など柔軟な対応を行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	常に相談や受診が行なえる協力病院を確保している。また、定期的に看護師が訪問し、健康管理に努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	見取りについての同意書やマニュアルの整備がされており、ホームとしての方針についても職員間で話し合いを行なっている。終末期のケアは協力病院や家族の協力を得ながら進めていく方針である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーに配慮した言葉かけを職員は行なっており、個人情報の取り扱いについての書式の整備や、記録物の取り扱いにも配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム内の流れはあるものの利用者のペースに合わせたケアの提供をしている。		

茨城県 ケアホームテンダーの杜なか

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備を一緒に行ったり、畑でできた食材を使ったりしている。朝・夕の食事は職員も一緒に取っているが、昼食は一緒には取らず、介助や言葉かけのみとなっている。	○	食事を楽しむ環境として、食事介助や見守りの方法、職員との会話や他の利用者との関わりを持てる環境設定を再度検討することを期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	季節のお風呂が楽しめたり、利用者の希望に合わせた時間帯での入浴ができるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入所前の利用者の生活状況を家族や利用者から情報収集し役割を見つけたり、気晴らしの支援ができるよう取り組んでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	お弁当を持ってピクニックに出掛けたり、散歩や庭の散策など常に外出できる支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間の戸締り以外は施錠することはなく、利用者は職員の見守りの中で外出などができるようになっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立会いのもとでの避難訓練の実施や、緊急対応マニュアルの整備がされており、地域への協力依頼も行なっている。		今後は、地域との連携をより深めながら、地域の緊急連絡網の作成を行い、より充実した災害対策が行われることに期待したい。

茨城県 ケアホームテンダーの杜なか

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事摂取量や水分摂取量の記録をとっている。また、体重測定や運動を取り入れるなど健康管理にも配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や昔ながらの装飾品が置かれており、清潔で寛げる空間の確保がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の大切にしているものや趣味のものが置かれ、安心した時間が過ごせるよう配慮されている。		